

# 陸奥湾蓬田村の漁業者とともに取り組むアマモ場の保全・造成活動 ～プロジェクトと活動の概要～

## 1. 活動フィールド

・蓬田村は、青森県津軽半島の陸奥湾沿岸にあり、中山山脈から流れる四本の川が美田と養殖ホタテを育む自然豊かで四季の楽しみが尽きない地域です。

## 2. 代表申請者(蓬田村漁業協同組合)

・組合員60名の蓬田村漁協は、年間7億円～10億円前後の水揚げがあり、生産金額の98%以上がホタテ養殖とナマコ桁曳漁業で占められています。

・ホタテ養殖は村の基幹的な産業ですが、近年、夏場の高水温による大量斃死や成長不良が頻発して大被害をもたらしているほか、空気中の二酸化炭素が海に溶け込むことで起こる海洋酸性化もホタテへの影響が指摘されています。

・地球規模の環境変化が、蓬田村の漁業にも大きな問題を引き起こしています。



青森 NEWS WEB NHK青森放送局

ことしの陸奥湾養殖ホタテ 稚貝のへい死率は45.7%

12月20日 17時42分



県などがこの秋に実施した陸奥湾で養殖されているホタテの成育状況を調べた結果がまとまり、去年の夏の高水温の影響が長引いていることから、ことしの春に生まれた「稚貝」のへい死率は、およそ45%と去年より減ったものの、平年を大きく上回る結果となりました。

青森県や陸奥湾に面してホタテを養殖する漁協などは毎年、春と秋にホタテの成育状況を調査していて20日間開かれた調査結果の報告会には漁業関係者などおよそ60人が出席しました。

この中で県などは、去年の夏の高水温を受けて、ことしは海水温の低い水深の深いところで養殖する対策を講じてきましたが、陸奥湾内で海水温が平年より高い状態が続いたため、ことしの春に生まれた「稚貝」のへい死率は45.7%にのぼったことを明らかにしました。

地域を守る 地域を創る RAB青森放送

ニュース テレビ ラジオ イベント 録画室 アナウンサー

社会

「ひどい…初めての経験」陸奥湾ホタテが今年もピンチ！青森市内の海域では9割以上の稚貝へい死も 高水温の長期化とエサ不足で稚貝が疲弊か

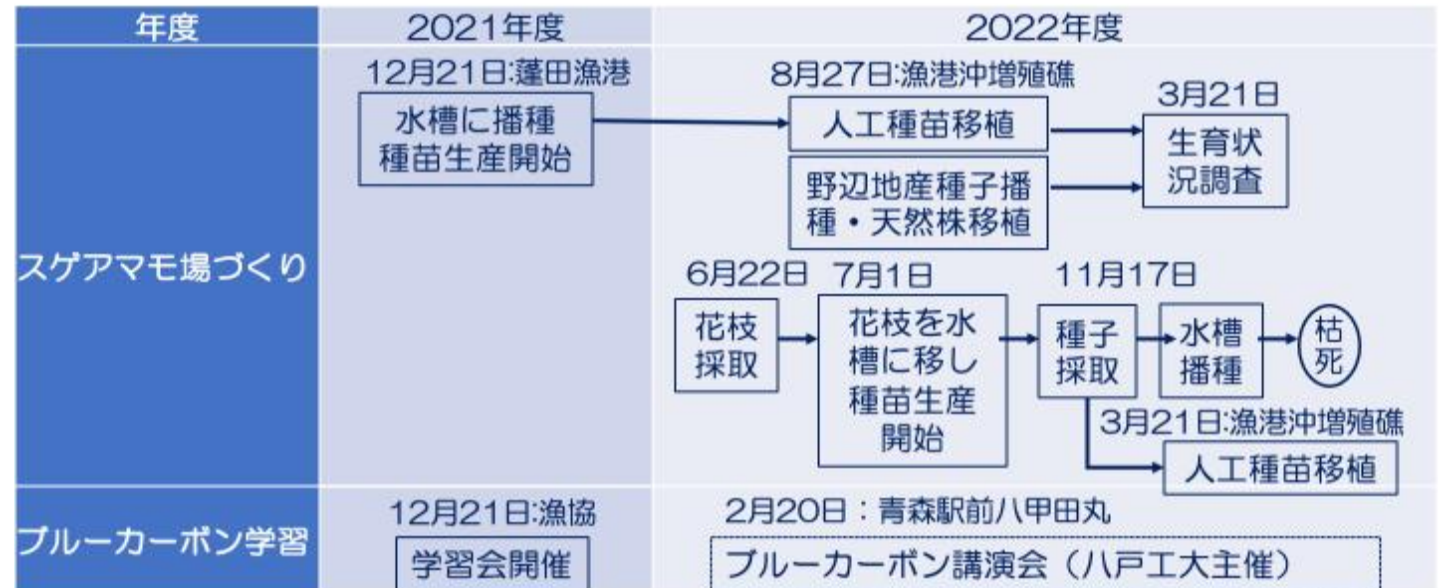
2024年12月19日 6:01



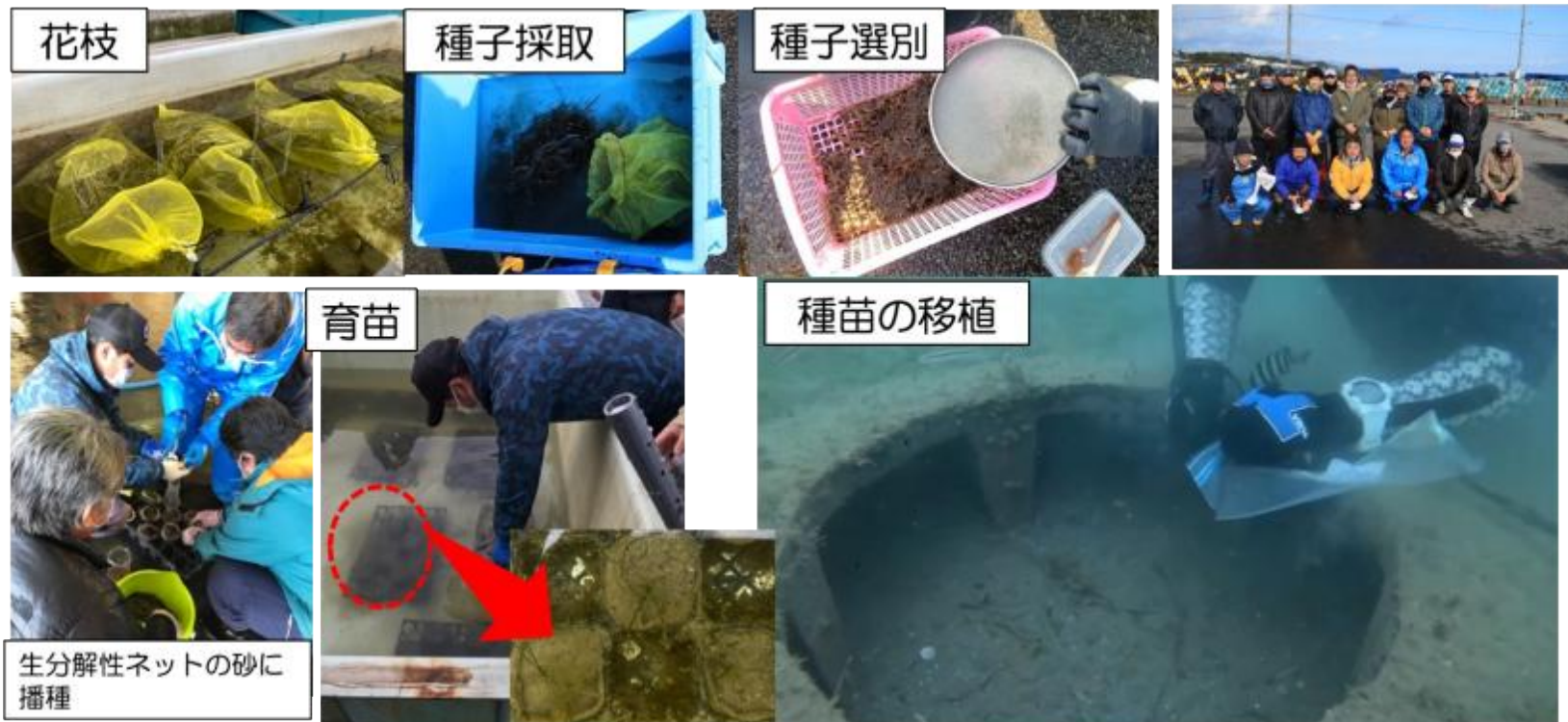
稚貝へい死率 9割超の海域も 漁師「ひどい 初めての経験」

### 3. これまでのプロジェクト

・若手のホタテガイ養殖漁業者を中心に地球温暖化やブルーカーボンに強い関心を持つようになり，2021年度から村役場，大学の支援を得てブルーカーボンの学習会やスゲアマモ場づくりに取り組みました。



・また，漁協の水槽にスゲアマモの花枝を吊るして採取した種子を水槽中で育苗し，翌年に青森県が造成したナマコ・アマモの増殖場に移植するなどの活動にも取り組んできました。



## 4. アマモ場の保全活動

- ・ 陸奥湾では、アマモ場でナマコの桁曳漁獲が操業されています。
- ・ 八尺と呼ばれる桁曳網で海底を引き廻しナマコを漁獲するのですが、アマモ場にはたくさんのナマコが生息するため、大量のアマモ場を採取し、その中からナマコをより分けて漁獲している地域もあります。
- ・ 蓬田村漁業協同組合では、桁曳によって稚ナマコや稚魚の生息場となるアマモ場を壊さないよう、蓬田村漁協では平成18年12月に水深6m以浅を禁漁区とし、桁曳漁業を全面的に禁止しました。
- ・ 禁漁区はのちに水深7m以浅にまでに拡大し、アマモ場の保全範囲を広げて現在に至っています。

陸奥湾のナマコ桁曳操業風景(蓬田ではありません)



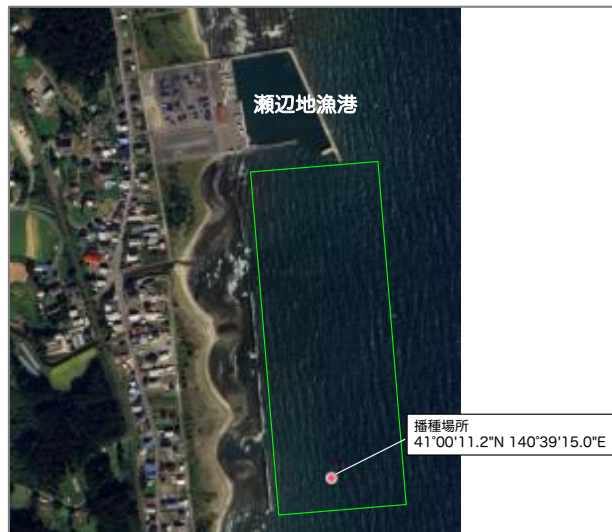
## 5. アマモ場づくり活動

### (1) 2024年度

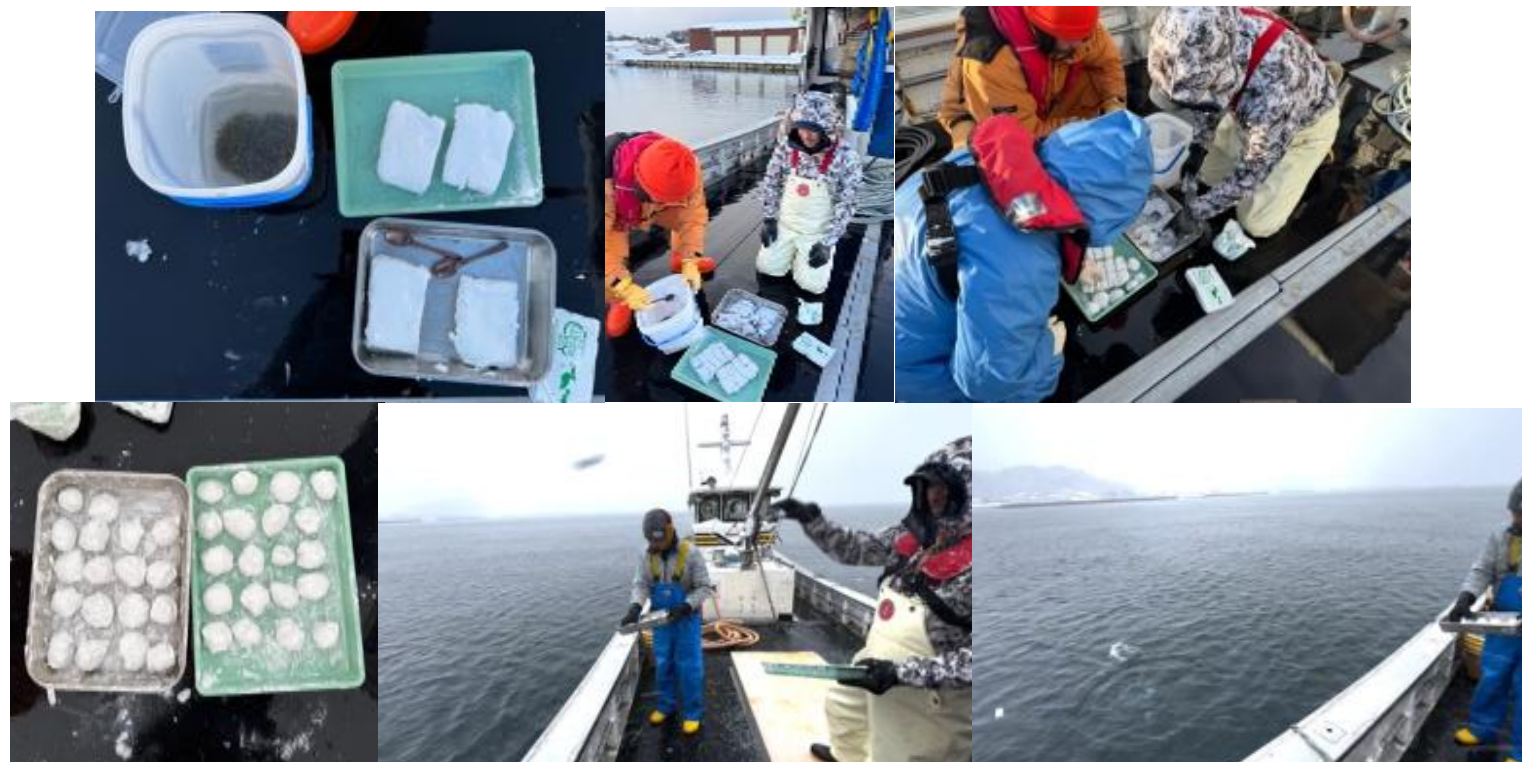
- ・2025年3月に10.7トン-CO2のJブルークレジットが認証されたアマモ場の拡大を目的に、アマモ場の縁辺部にスゲアマモの種子を播種しました。

- ・2024年7月に野辺地町十符ヶ浦海水浴場から採取した花枝から選別したスゲアマモの種子を長さ5cm, 幅3cm, 高さ2cmに切り分け紙粘土中に50粒入れた「種団子」を38個作りました。

- ・2025年2月に蓬田村漁業協同組合の若手漁業者が漁船から海底に「種団子」投げ入れて播種しました。



播種の位置と播種風景



## (2) 2025年度

- ・2025年7月12日に蓬田村たままつ海の情報館で開催された、「海の生きもの観察とむつ湾の風を知る体験会」行事の一環で玉松海岸に漂着したアマモ花枝を採取し、網袋に入れて蓬田漁港に設置されている蓬田村漁業協同組合の水槽に保管しました。
- ・9月30日に蓬田村漁業協同組合の漁業者が中心となって網袋から枯れた花枝を海水を容れたコンテナに移し、デカンテーションを繰り返すことで種子の選別を行いました。
- ・集めた数千粒の種子を冷蔵後に保管し、12月にアマモ場周辺に漁船上から播種することとしました。



玉松海岸での花枝採取と網袋への収容(2025年7月12日)



種子の選別(2025年9月30日)